

奈良TIME（総合的な学習の時間）のフィールドワーク として深層崩壊箇所を提供し、災害復旧等について説明を実施

～紀伊山系砂防事務所～

奈良県立畝傍高等学校の奈良TIME（総合的な学習の時間）におけるフィールドワークとして、生徒のグローバル人材としての資質向上を図るため、地元における社会の実態と課題を学ぶ計画により、平成23年台風12号に伴う大雨により河道閉塞が発生した奈良県五條市大塔町の現場見学会を実施しました。

今回は川原樋川床固工群に完成した2号砂防堰堤で2日間に分けて行われ、生徒の皆さんは普段は立ち入ることの出来ない現場を間近で見学され、担当者の説明に熱心に耳を傾けられていました。

5月9日(火)



5月30日(火)



【見学された生徒さんの感想】

- 想像していたよりも土砂崩れの被害が大きいこと、台風の影響による土砂のために砂防が何回も破壊されていることに、とても驚きました。
- 土砂崩れをした現場を自分の目で見て、自然災害の恐ろしさ、二次災害防止の大切さを感じました。
- 実際に土砂災害が起きていた所を目の当たりにして、改めて自然災害とは人間の力では到底食い止められない恐ろしいものなのだと実感しました。
- 深層崩壊前の姿と後の姿、また、崩壊して流れ込んだ土砂を間近で見て、想像よりも遥かに迫力があって、危険な現場だなと思いました。
- 実際に砂防建設が行われている場所を訪れたことで、砂防が非常に大きな規模の土砂災害と対峙していること、台風などの影響で何度も被害にあったことも分かり、インターネットで見たことよりもはるかに大変な事業であることが分かりました。
- 自分の知らないところで、すごい災害が起きていて、それを復興しようと命をかけて真剣に作業されている方の姿を見て感銘を受けました。
- 砂防事業がどれだけ危険な仕事であるか、よくわかった。また、今までテレビでしか見たことのない土砂崩れの崩落現場を実際に見て、その規模の大きさに驚きました。
- 砂防は見たことがなく、どれぐらいの大きさで、どんな所にあるのかも知らなかったけど、今回、紀伊山系砂防事務所の方のお話を聞いたり、本物の砂防を見たりして、発見がたくさんありました。まず、砂防が土砂災害による被害を小さくするために重要な役割を果たすことや、作っている途中で新たな土砂災害により、ゼロからのスタートになるなど、見学会がなければ知れないことも知ることができました。
- 人が立ち入ることのできない危険な場所でも工事を進めるための工夫として、無人化施工や航空レーザー測量など、最先端の技術を用いていることを知ることができました。

日 時：平成29年5月9日(火)、5月30日(火) 14:30～15:30
場 所：川原樋川床固工群（奈良県五條市大塔町）
参加者：奈良県立畝傍高等学校 合計51名
（5月9日…26名、5月30日…25名）
紀伊山系砂防事務所（柳谷建設専門官）

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
紀伊山系砂防事務所 工務課
〒637-0002 奈良県五條市三在町1681
TEL 0747-25-3111（代）

